

2020年4月14日
攬勝亭を守る会

「攬勝亭を守る会」

会津若松の三名園のひとつ「攬勝亭」が積水ハウス不動産東北(株)に売却され宅地開発されます。しかし、歴史的価値ある攬勝亭を破壊してしまうと、二度と再生させることはできません。当会は、会津若松市長、同教育長に対して攬勝亭の保存と調査を強く求めてまいります。

攬勝亭の沿革

- ・地形などから中世土豪館跡と考えられている。
- ・白髭洪水（1536年）の後、一面柳原となっていた当地を、1543年以来、葦名氏を頼った三条長尾氏（上杉家一族）が居住した。
- ・会津藩祖保科正之公が来訪し、「攬勝亭」と命名した。
- ・元禄時代に第3代会津藩主正容公が家臣丹羽勘右衛門宗能に作庭の監督・管理にあたらせた。以後、藩営の庭となる。
- ・歴代の藩主が立ち寄り、容保公などの歌碑が存在する。
- ・戊辰戦争時には朱雀隊、青龍隊などの陣屋となり、薩摩十八番隊に焼き討ちにされた。
- ・明治22年頃までは長尾氏が所有していたが、その後、所有者が転々とする。
- ・大正15年森氏が購入、茶室を建てるなど整備される。
- ・昭和19年マルニ工芸漆器製作所関係者が所有するも倒産。
- ・昭和31年S氏が購入、庭が再整備される。
- ・令和元年12月9日 会津若松市が開発許可。
- ・令和元年12月16日 積水ハウス不動産東北(株)が取得。

〒965-0042 会津若松市大町1-2-9

攬勝亭を守る会 会長 高瀬 淳

0242-22-7330 Fax25-3977

メール ransyoutei@amail.plala.or.jp

ホームページ <http://www17.plala.or.jp/ransyoutei/>

当会は市内はもちろんのこと、全国から会員を募集しています。併せて、皆様からの室井会津若松市長宛の「攬勝亭の保存・調査の要望書」も受け付けています。詳細は、ホームページをご覧ください。

令和2年 月 日